

江戸時代は3Rの世界

今の子供の写真と、江戸時代に書かれた庶民の子供の姿には大きな違いがあります。着ている服に洋服と和服の違いがあるのは当然ですが、目立つのは服の種類だけではなく大きさです。江戸時代の子供の服は背丈に比べて全般的に小さく、袖が手首と肘の間ぐらいまでしかありません。裾も短いので、男の子の足は脛から下駄まで素足のまま伸びています。でも新品を買ってもらったときはそうではなく、手足が伸びるのが早いのでこのような姿になるのでしょう。今の子供は身長が3センチも伸びれば新しい服を買ってもらえますが、江戸時代は何年も新調してもらえませんでした。どうしても着られなくなると下の子が続いて着ましたから、否応なくリユースやリサイクルを含む長期使用だったのです。女性の服は古くなるとほどこいて浴衣にし、さらに古くなると赤ん坊のおしめになり、その後は雑巾になっていました。何回もリサイクルしていたのです。

長寿命化は新規需要を抑制するリデュース（R：Reduce）と呼ばれ、別の人が再利用するのはリユース（R：Reuse）と呼ばれています。着物を浴衣に作り直すのは、加工がともなうリサイクル（R：Recycle）です。環境のキーワードとされる3Rは、江戸時代には当たり前前の生活習慣だったのです。ただし当時は望んだからではなく、今よりはるかに物不足だったのでそうせざるを得なかったのです。今は江戸時代よりはるかに豊かなので、江戸時代の生活習慣は真似ができませんが、3Rの精神は今後も尊重する価値があると思います。